

# スマートセーフシティの推進について【概要】

## ○目的

デジタル技術を活用し、市民の健康で安全・安心な暮らしを実現する。

## ○経過

令和3年度にアプリの開発に着手し、基本機能を構築した。

令和4年度は国の交付金を活用して次の実証実験を行い、令和3年度の取組を発展させたサービスを実装した。

1) さのまるポイントチェックインラリー

(ポイント付与による行動データの取得＋ポイント共通化の仕組み)

2) サノミライウォーク(歩くことへのポイント付与による健康増進)

3) さのスマートセーフマップ(防災などの情報発信＋ポイント付与の仕組み)

## 令和4年度 さのまるポイントチェックインラリー 概要

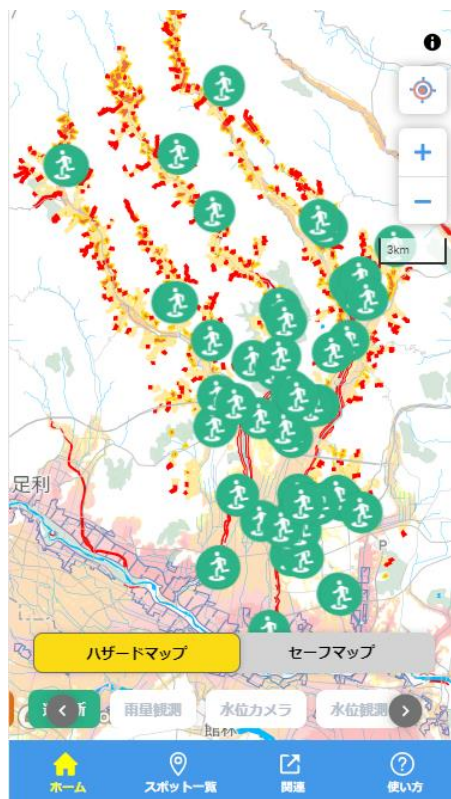
目的	アナログでのスタンプラリーや商品券の発行などでは情報を集計して分析することが難しいため、アプリを使ったキャンペーンの実証実験を行い、情報を収集・分析するための仕組みを構築
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 参加者は、サノミライID（ID、パスワード、電話番号、メールアドレスなど）を登録</li> <li>② 参加者は、協力店で二次元コードを読み込んで地域ポイントを取得</li> <li>③ 参加者は、抽選に応募</li> <li>④ アプリで取得したポイントを統合して利用できる仕組みおよびデータを蓄積する仕組みを構築</li> </ul>
期間・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 8/18 ～ 9/19（イオン様）・・・チェックポイント 100か所</li> <li>② 11/ 1 ～ 2/28（イオン様）・・・チェックポイント 100か所</li> <li>③ 12/ 1 ～ 2/28（市内）・・・チェックポイント 62か所（アウトレット様のみ3か所）</li> </ul>
サノミライID数	総数 1,327人（令和4年度登録者数 584人）
実参加者数	198人
チェックイン数	29,108回（イオン 28,663回、他 445回）

## 令和4年度 サノミライウォーク 概要

目的	市民が楽しみながら健康増進に取り組む仕組みを構築 市民の歩数やアンケートなどのデータを収集・分析するための仕組みを構築
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 参加者は、サノミライID（ID、パスワード、電話番号、メールアドレスなど）を登録</li> <li>② 参加者は、アプリをインストールして初期登録</li> <li>③ 参加者は、歩いて歩数を送信、健康講座などへの参加、アンケートへの回答</li> <li>④ 参加者のポイントをさのまるポイントへ連携する仕組み構築</li> </ul>
期間	9/30 ~ 2/28
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 歩数（2,000歩～10pt、4,000歩～20pt、6,000歩～40pt、8,000歩～50pt、送信 2pt）</li> <li>② 健康講座・ウォーキングコース参加など（100pt）</li> <li>③ 指定した地点などの周遊（10pt）</li> <li>④ アンケート（回答 100pt、特定健康診査等 200pt、検診等 200pt）</li> </ul>
参加者数	319人
平均歩数	6,387歩/人/日

# 令和4年度 さのスマートセーフマップ 概要

## ハザードマップ



避難所

## セーフマップ



AED設置施設

## 投稿機能〈実証実験〉



## 投稿内容

(仮称) 高萩中央公園

### 【投稿の情報】

現在地からの直線距離  
2.5km

### 投稿内容

公園灯ハンドホール状況

### 写真



# 令和5年度 さのまる健康アプリ 協働の仕組み



 歩いて、受けて、健康貯筋   
(健診・検診)



〈 市民 〉  
主体的・継続的に  
楽しみながら健康づくり

〈 携帯ショップ 〉  
市民へ事業のPR  
市民のアプリ登録を支援

〈 事業者 〉  
市民へ事業のPR  
景品の提供  
市民の歩く習慣を支援

〈 佐野市 〉  
市民の健康づくりを支援

ウォーキング、体重の管理、  
健診・検診の習慣化

〔歩くことによる医療費抑制効果〕  
0.061円/歩/日

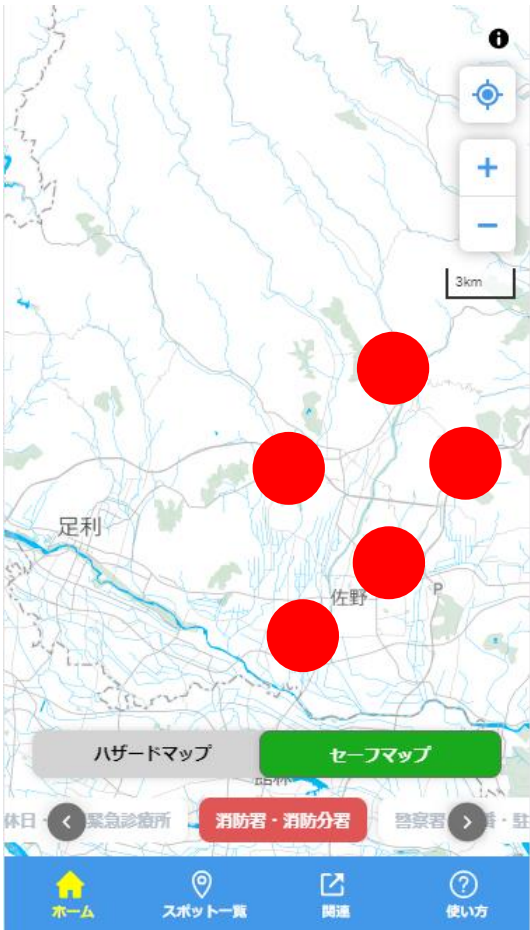
市民の健康長寿  
を推進

# 令和5年度 さのスマートセーフマップ 計画

11 住み続けられる  
まちづくりを



## セーフマップ



防災や防犯に関する各課の  
情報など

## 投稿機能



情報

情報

実証実験

市民の利便性向上、  
業務の効率化を  
検証